

2014（平成 26）年度 海外留学体験報告書

仁荷大学（韓国）

文芸学部 文学科

1.留学中の活動詳細について

①授業内容

1 年間の授業を振り返り、韓国語で受ける授業はもちろん簡単ではありませんでした。1 学期は授業を全て韓国語で受けるということ自体初めてだったので、半年間気が休まらない状態で本当に大変でした。外国人の為の韓国語の授業はそれ程難しくないものもあり、大体は理解できたのですが、韓国人の一般の生徒と一緒に受ける授業は非常に苦戦しました。日本語でもあまり使わないような専門用語がたくさん出てきて、辞書で探そうと思うもその単語を探している間にまた分からない単語が出ていてと、追いつかず授業中に頭が爆発しそうな程でした。幸い、2 学期は履修登録が上手くいったということもあり、また少しは韓国語能力が伸びたということもあり、1 学期のように授業が大変と感じることはあまりありませんでした。むしろ授業で友人に会えることが嬉しく、日本人の友人と一緒に受けず一人で受講した授業もいくつかあり、そのお蔭で韓国人の友人も増えたので、授業に行くのが楽しみな程でした。

②生活面

留学に来てすぐは部屋が 4 人部屋で、ましてや知らない人との共同生活や、トイレやシャワーの共同はなかなか慣れず、授業から疲れて帰って来て本来なら疲れを癒せる筈の部屋で気を遣わなければならないので少し苦戦しました。またテレビも階の休憩室に 1 つしかなく、ガスコンロも 1 つしか無いのでどちらも誰かが先に使っていればその人が使い終わるまで待たなくてはいけないので、自分の計画通りにとはいかない時もありました。その悩みは時間が解決してくれて、共同のトイレやシャワーも今では何の抵抗もなくなり、それどころかどちらも掃除をしなくても良いので共同で良かったと思う程です。テレビやガスコンロも慣れればそれほど気にならず、もし誰かがいれば他の階に行き、見たいテレビがあれば少し前から場所を取っておくなど臨機応変に動けるようになり、それほど大変ではありませんでした。ルームメイトとも時間と共に少しずつ打ち解け、夏前には本当の自分の部屋のように落ち着くこともでき、ルームメイトも友達以上の家族のような大切な存在になり、部屋も大切な場所になっていました。

食事に関しては平日の朝と晩、寮で食べられるので栄養は十分取れていたと思います。しかし寮の食事で栄養を取っているからと、昼食は友人と約束している時以外はよくラーメンを食べて、友人から呆れられていました。

写真はトイレと洗面台、そして寮の少し豪華な時の食事の写真です。



③経済面

1 学期は 1 ヶ月でいくらぐらいが適当なのか分からず、恐る恐る様子見で使っていたということもあり、あまり使わず寮費などは除き 1 ヶ月に大体 4 万円程でした。私はあまり化粧品などを買ったりしないので、経費はほぼ食費（特に昼食と間食）に使っていたと思います。2 学期に入り、1 ヶ月にどれくらい使って良いのか感覚が掴めてきていたのですが、留学生活にも慣れたお蔭で友人も増え、夕食を一緒に食べる機会が増えたことにより、寮の夕食を食べる機会が減りました。その為 1 学期に比べ非常に食費がかかりました。そして留学生活終盤になると「最後だから」という気持ちが強くなり、あまり金銭的なことは気にせず、それよりも時間を大切にしようと思い使っていました。そういうこともあり、最後の月は大体 8 万円程使ってしまったと思います。しかし、友人と食事に行く機会も多くなることは嬉しいことでもあり、とても大切な時間なので全く後悔や残念な気持ちはありません。

2. 留学の成果について

留学に来た当初は韓国人と直接話した経験もほとんどなく、韓国人と 2 人で会う事はもってのほかで、話すことにすら恐怖心を抱いていましたが、終盤は韓国語を話す事が楽しくて仕方ありませんでした。もちろん、ただ一緒にいることが楽しいという自己満足だけでなく、実際に少しは韓国語力がついていた様で、半年ぶりに会った友人にお世辞も入っているかもしれませんが、上手になったねと褒めてもらったことが何度かあ

りました。お店でもスムーズに会話ができるようになり、今までは何か気になっても「質問して、返事が聞き取れなかったらどうしよう」と心配でそのままにしていたことでも気軽に聞けるようになり、お爺さんやお婆さんに電車を聞かれても落ち着いて答えられるようにもなりました。また、留学に行き、物事を以前よりも広く考えられるようになり、視野も広がり、社会的にも人間的にも成長できた気がします。

3. 反省点

以前から何度か言っていたことなのですが、母国語で不自由なく思ったことを話せる日本人と一緒にいることが楽で、気が付けばいつも日本人の友人と一緒に行動しているということが多かった気がします。終盤の 11 月 12 月は友人が増えたということもあり、できるだけ韓国人と会うようにしたのですが、時間もあまりなく、会おうと言ってもなかなか会えない人もいて少し残念でした。もっと早く沢山の友人を作り、よく会っていれば、さらに韓国語が上達していたと思うと残念です。もう既に留学生活が終わってしまった為、今からとは行きませんが、日本に帰ってきた今でも連絡は取り合えるので、良く連絡をするようにし、できれば会話力を衰えないようにするためにも、メールだけでなく時々電話もしようと思います。

4. 海外留学をこれから目指そうとする学生、ならびに協定校への留学が決定した学生へのアドバイス

母国語が通じない国で生活するということは、初めは本当に不安でいっぱいだと思います。実際私もそうでした。ましてや実家暮らしだった私は親元を離れることも初めてで、その初めてがなかなか言葉の通じない海外だったのでどうしていいのか本当に分かりませんでした。きっと 1 人だったら何も出来ていなかったと思います。けれど留学に行けば支えてくれる友人にも出会え、忘れられない素敵な思い出が驚くほどできます。行って後悔は絶対にしません。私が保障できるくらいです。留学をそんな良い思い出にするためにも、留学先の学校に行っても学生だということは決して忘れず、羽目を外し過ぎないように注意すべきです。特に韓国はお酒を飲む機会が多いので決して飲み過ぎないように注意し、「お酒は飲んでも飲まれるな」と言う事を頭に入れておくべきです。

また、海外に行けば学校の名前を背負っているだけではなく、日本人という枠組みでみられることが多いので日本人として誇れるマナーをしっかり身につけておき、日本に対しての質問をされたときにすぐに答えられるように、日本についてある程度知識をつけておいた方が良いでしょう。日本に対しての質問は結構多かった気がします。

そして私が一番言いたいことは、やはり現地の友人を沢山作ることです。初めはなかなか難しいかもしれませんが、できるだけ早く作るべきだと思います。お互い大学生で忙しいので、なかなか会う時間がなく、留学という限られた時間の中で本当に仲良くな

るのは非常に難しいことです。もう少し時間があつたらと後悔する前に、できるだけ現地の友人に会い、仲良くなっておくべきです。現地の友人を作り、一緒に時間を過ごすことによって、より一層留学生活が楽しくなると思います。

私は留学を終えたばかりですが、既にもう一度留学に行きたいです。それ程留学生活は充実していて、非常に貴重な経験でした。この留学での思い出は一生忘れることはできない大切なものになりました。ですので、今から留学に行く人は不安かもしれませんが大丈夫です。きっと帰って来るときには私のように「まだ帰りたくない。もう1年留学したい。」と思う程、充実した留学生活をおくれているはずです。そして留学で経験したことは、非常に貴重で一生の思い出になります。迷っている人は必ず行くべきです。そして、もう決まった人は私に代わってほしいくらいです。留学はもちろん良いことだけではありませんが、そういうことも含めて人間的にも社会的にも成長できる貴重な経験なので期待して行っても良いと思います。